

研究主題

課題を自分事として捉え、互いの考えを認め合いながら解決できる児童の育成
～持続可能な社会づくりの担い手を育てる学習を踏まえた授業を柱に～

1 単元名「校庭から考えよう ～ わたしたちにできること ～」

2 単元の目標

校庭や地域の環境に関心をもち、生き物探しや自然とのふれあいを通して、校庭や地域の環境の豊かさを実感し、愛着をもつことができるようにする。また、グリーンベルトの観点から校庭や地域の環境を維持したり、より良くすることができるのかを考えたり、行動したりできるようにする。

3 評価規準

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価規準	① 目白小の校庭や地域の生き物は、周りの環境と関わって生きていることを理解している。 ② 生き物の状況や特徴を捉えるために、生物種や生息環境に応じた方法でフィールドワークを実施している。 ③ 生き物が周りの環境と関わって生きていることの理解は、校庭や地域の生物のつながりを探究的に調べたことの成果であると気付いている。	① 校庭や地域の自然環境への関わりを通して感じた関心をもとに課題をつくり、解決の見通しをもって計画を立てている。 ② 課題を解決するために、友達と協力して必要な情報や手段を選択して多様に収集し、種類に合わせて蓄積している。 ③ 課題解決に向けて、観点到に合わせて情報を協働的に友達と共有したり、整理したりしている。 ④ 相手や目的に応じて、分かりやすく表現している。	① 課題解決に向け、自分が取り組もうとしているよさに気付くとともに、自分と異なる意見や他者の考えを受け入れて尊重しようとしている。 ② 課題解決に向け、自他のよさを生かしながら友達と協働的に活動して問題解決に取り組もうとしている。 ③ 環境をよりよくするために、自分たちでできることを見付けようとしている。

4 本研究を踏まえて

(1) 本単元がもつ教材としての意義

本単元は、校庭という身近な場所を切り口に自然環境について学び、そこから自然の役割や環境問題について知り、自然環境を守るために自分たちに何ができるかを考える学習である。

1学期は理科の学習で種を植えて植物を育て、観察する学習や、身近な昆虫をたまごから育て、観察する学習に取り組んできた。じっくり観察をしてまとめていく中で、植物や昆虫の育ち方や体のつくりの特徴について学習した。

それに並行して、総合的な学習の時間では、ネイチャーセンターリセンの方に外部講師として来ていただき、校庭には様々な植物が生えていて、様々な鳥や昆虫が住んでいること、吸虫管を使って土壌生物を見つけ、見えないところにも様々な生物がいることを、実際に校庭で体験しながら教えてもらった。

また、「やご救出作戦」では、プールの中のやごを捕獲し、トンボに羽化させる活動に取り組んだ。

このように、植物や動物について概念的な知識を学ぶとともに、実際にどのような場所でどのように生育しているのかを体験的に学んできた。

2学期は、夏休みに取り組んだ「としま生き物さがし2024」から、豊島区のどこにどんな生き物がいるのかまとめたり、だれも調べていなかった学習院にはどんな生き物がいるのか調べたりする活動を通して、目白小から地域の自然環境に目を向けていく。そして、地域の自然は離れていても生き物が行き来することでつながり合っている(グリーンベルト)ので、校庭の自然環境を守ることは大切であるということを学習していく。さらに、そのために自分たちにできることは何かを考え、実際に取り組んでいく。

このようなことから、自分たちの周りには様々な動植物がいて、それぞれがお互いに関わり合って生きていること、そして校庭だけで自然環境が完結しているわけではなく、地域の自然を生物が行き来することで自然が保たれ、動物のすみかになり、人間にとって大切な木陰や癒やしの場所になっていることが分かり、その自然環境を守るために自分たちに何ができるか、切実感をもって自分事として考え、行動していくことができる考える。

(2) 本単元を学習する上での児童の実態

3年生となり、新たに理科や社会科、総合的な時間の学習が始まり、いろいろなことに挑戦している。理科では、モンシロチョウやアゲハチョウを卵から育てた。児童はお世話をすることに興味をもって取り組んでいた。社会科でも豊島区について関心をもって、考えたり調べたりしている。

総合的な学習の時間では、目白小のプールからヤゴを捕まえて、成虫になるまで育てた。意欲的に餌やりや成長の様子を観察する姿が見られた。また、目白小にあるビオトープに住んでいる生物や校庭にある自然、土壌生物について探した。実際に、校庭に寝転び、自然の音や地面の温度に触れたり、土壌生物を地面から見つけたりすることで児童は、校庭には意外にも植物がたくさんあることやそれに関わる昆虫や鳥がいることを体験した。

昆虫や自然に関しての学習を意欲的に取り組むことはできているが、一方で、友達の考えを聞いたり、認めたりする場面で課題が見られる。友達と関わることは好きだが、対話を上手にできず、トラブルになることが多い。授業中のグループで考えを伝え合う場面では、誰かが話を進めないと話し合おうとせず、話をする順番を決めるのに多くの時間を費やす、言い間違いや矛盾点に対して馬鹿にする、そこから言い合いに発展することがある。それを踏まえ、本学習では、友達の話や分かろうと思って聞く大切さや、話し合いをすることで自分の考えが深まるよさに気付かせていきたい。

5. 本単元を指導する上でのポイント

以上を踏まえ、次のように指導し、本研究主題を達成する。

〈視点1〉 児童が課題を自分事とするための工夫

児童にとって身近な学校の校庭や豊島区の自然を活動の場とし、体験的な活動を基に、地域と関わり、地域の良さに触れる活動を行う。

(1) 実体験したことから考えさせる。

豊島区の区民参加による生態調査として実施されている「としま生きものさがし2024」を夏休みの課題として出し、豊島区の生きものに関する情報の収集を行なわせた。2学期、それらの結果を交流する活動を行い、学校環境や地域の自然により関心が生まれ、地域によっての環境の違いや自然の変化に気づき、もっと観察してみたいという思いへと膨らませていく。その思いを基に、「豊島区、生きもの調査員になろう!」とテーマを設定し、さらに実際に観察調査しに行く活動へとつなげていく。

児童の「〇〇したい」を引き出し、自然体験型の学習の充実を図って、野外での発見や気づきを大切にしながら学習活動を進めていく。観察、調査は、「音」や「手触り」、「におい」などの五感を使って行い、児童から出てきた視点を大切にしながら、生き物についての理解を深め、より主体的な取り組みへとつなげていく。

(2) 外部人材の活用

1学期、専門的な知識をもった外部講師（ネイチャーセンターリセン）を招き、5月には校庭や体育館倉庫裏の自然観察を、6月には吸虫管を作成して土壌生物の観察を行った。発見した生きものや気づいたこと、分からないことを講師の先生に聞き、詳しく教えていただいたことで、校庭の自然環境について知ることができ、地域の自然環境に関心を広げることができた。

また、7月の「ヤゴ救出大作戦」では、外部講師より、なぜヤゴを救出するのか（保護）、救出した後はどうするいいのか（飼育）、来年のヤゴのためにどうしたらいいか（エコアップ）等教えていただき、プールからは、1400匹のヤゴを救出し、飼育活動を行ってきた。

学習院の観察、調査する際にも外部講師に同行していただき、調査、観察方法についてレクチャーを受け、調査活動を進めていく。

(3) 振り返りから次時以降の課題を設定する。

毎時間、振り返りの時間を十分に確保する。また、振り返り後にペアやトリオで伝え合う場を設定し、各々の学びのよさを価値付け、次時の学習へ意欲を高めることができるようにしていく。

本単元では、観察・調査した場所からの情報収集の結果を踏まえ、今後の活動について考えていく。「調べる場所」と「対象」によって調査方法が変わってくると考えられるが、情報収集の方法を自ら選択することが、自主的な情報収集につながることを考えると考える。観察場所の調査結果は、地図やマップにまとめて共有し、蓄積することで、次時以降の、「もっと別の場所も観察、調査したい。」「季節が変わるとどうなるのだろう。」と自分たちの調査活動への意欲につなげる。

さらに、95周年記念に向けて、「学校の自然を守るために私たちにできることは。」「ビオトープをきれいにしたい。」「全校にこれまでの調査結果を伝えたい。」という課題設定につなげ、自分の意思で探究的な活動に取り組めるようにしていく。

〈視点2〉互いを認め合いながら解決するための手立て

互いの感性を共有し、校庭や地域の自然を大切にしようと思う心、生きものと共存していける心を育てる。SDGs や生きものが移動できるような緑地間のつながりの大切さを知り、自分たちも校庭や地域の自然を守りたいという思いを話し合い、協力して行動できるようにする。

(1) 他教科・道徳・特別活動の指導と関連付けた指導

他者との関わり、認め合う力の向上には、普段の学習指導からの積み重ねが必要である。各教科の話し合いや発表の場面では、話し合いの進め方や発表の仕方等、ルールを明確にして取り組ませている。国語や外国語活動を中心とした言語活動の積み重ねを重視し、話し合い活動の場を通じて意見の合意形成をはからせていく。

(2) 話し合いのルールの明確化

相手にわかりやすく話したり、話していることを理解したりすることは、他者とコミュニケーションをとるうえでとても大切だ。そこで、話し方名人「カレーライス」、聞き方名人「ウメライス」を合い言葉に、基本的なコミュニケーションの取り方を提示する。

話し方を身につけるには、日常生活の中でも「話す」ことについて、意識をさせていくことが必要である。そのために、児童の発表の手助けとなるよう、話形を示しておく。

同様に聞く側には、聞き方あいづち「あいいうえお」を提示し、友達が温かく聞いてくれるというクラスの雰囲気も育てていく。

本単元とSDGsとの関連



身近な環境に興味をもち、生き物同士はつながっていること、身近な環境から地域の環境まで大切にしていくこと、そのために自分たちはどんなことができるのか考えていけるようにする。

○具体的な児童の姿

「学級園をきれいにして植物をふやしていきたい。」

「ビオトープをきれいにしたい。」

「としま生き物さがしをこれからも続けて報告していきたい。」



生物の命の大切さや、生物の多様性を守ることの大切さがわかり、身の回りの生き物と共存していく気持ちを育てる。

○具体的な児童の姿

「生き物をすぐにつかまえないで、大切にしていきたい。」

「生き物がいることで、人間は食べ物を食べていけるし、生きていけるので生き物を大切にしていきたい。」

「生き物が一つでもいなくなると、何かがなくなるので、生き物を大切にしていきたい。」

「生き物がいることで、気持ちが落ち着くから、生き物を大切にしていきたい。」

6 指導計画(全35時間扱い)

小単元	○学習活動	知	思	態	○評価方法 ◇支援方法
1 目白小学校の校庭の環境について知ろう。(12)	目白小学校にはどんな生き物がいて、どんな植物があるのか知ろう。 ○目白小の校庭の生き物や植物を見つけたり観察したりする。(3) ・校庭にねころび、風の音、におい、様々な音など五感で感じる。 ・虫を捕まえ、ミルビンで観察 ・池に入ってみよう ○目白小学校には、どんな土壌生物がいるのだろうか。(3) ・吸虫管を自分たちで作り、その吸虫管を使って虫を採取する。 ・土壌生物表で自然の豊かさを知る。 ○ヤゴ救出大作戦(3) 目白小学校のプールにいるヤゴを捕獲しトンボになるまで飼育し、放す。 ○目白小学校のどこにどんな生き物が生息しているのかまとめる。(3) 目白小生き物マップを作る。	① ②	①	① ②	○振り返り・発言(知・技①) ○振り返り・ワークシート(知・技能②) ○振り返り・発言(態度①②) ◇ゲストティーチャーの支持や説明の理解が難しい児童には、個別指導を行い、意欲的に参加できるようにする。 ◇生き物が苦手な児童には無理をさせず、友達が見つけた生き物の観察をさせる。 ◇理科の学習で行う不完全変態と関連させて、ヤゴからトンボになるまでの様子を観察させ、生命の大切さに気付くことができるようにする。
2 目白小の校庭での体験学習や学習院の自然環境を調べることを通して、自然環境に関する課題をもち、課題解決に向けて取り組もう。(11)	○豊島区にはどんな生き物がいるのかまとめよう。(2) ・夏休みの課題の「としま生き物さがし」で見つけた生き物を学区域地図にまとめる。 ・学区域地図の中の学習院は誰も調べていないので、次時は学習院の見学へいく計画をたてる。 ○学習院にはどんな生き物がいるのか調べる。(3) ・「としま生き物さがし」では調べられなかった学習院の森にはどんな生き物がいるのか調べる。 ○学習院での生き物さがしをまとめることを通して、生き物のすみかやつながりについて知り、自分たちがこれからどんな学習をしていくか考える。(1)(本時) ○土壌生物の重要性や、いままでのフィールドワークの経験をからめながら、グリーンベルトの重要性を知り、校庭や地域の環境を守る重要性に気付く。(3) ○校庭や地域の自然を守るために、自分たちができることは何か考えよう(2)	① ② ③	①	① ② ③	○ワークシート・発言(知・技①②③) ○ワークシート・振り返り・発言(思・判・表①) ○振り返り・発言・行動観察(態度①②③) ◇地図には公園名や住所が載る物にして、分類整理しやすいようにする。 ◇生き物が苦手な児童には無理をさせず、友達が見つけた生き物の観察をさせる。 ◇グリーンベルトについては、映像資料や図を見せることで理解しやすいようにする。 ◇自分たちができることは何かを考えるときは、個別にアドバイスを出して考えを引き出せるよう机間指導する。

3 課題解決に向けて、自分たちでできることを考え行動する。(12)	○校庭や地域の自然を守るために、自分たちができることについて、グループごとに課題解決を行う。(8) ・ビオトープをきれいにしたいグループ ・グリーンベルトの大切さを下級生に伝え合うグループ ○今後の自分たちと地域の自然環境とのかかわりについて、これまでの活動を振り返ってまとめる。(4)	③	② ③ ④	① ② ③	○ワークシート(知・技③) ○ワークシート・作品・タブレット (思・判・表②③④) ○振り返り・発言・行動観察(態度①②③) ◇グループの中で何をしたいかわからない児童に対して、個別指導しできることに取り組ませる。 ◇発表会の準備の際は、役割分担を明確にして、主体的な活動を促す。
-----------------------------------	---	---	-------------	-------------	---

7 小単元指導計画

目白小の校庭での体験学習や学習院の自然環境を調べることを通して、自然環境に関する課題をもち、課題解決に向けて取り組もう。(全11時間扱い)

時	学習活動	知	思	態	○評価(方法) ◇支援方法
1	・豊島区にはどんな生き物がいるのかまとめよう。(2) 「としま生きものさがし2024」で見つけた生き物をまとめ、「豊島区生きもの調査隊になろう(案)」とテーマを決め、活動していくことを確認する。	① ② ③	①	① ② ③	◇公園名や住所が乗っている地図を使うことで、分類整理しやすいようにする。 ○知・技①(ワークシート・発言)
2 5	・調査したい場所にはどんな生き物がいるのか調べまとめる。(3) ・調査した場所での生き物さがしをまとめることを通して、生き物のすみかやつながりについて知り、自分たちがこれからどんな学習をしていくか考える。(1)				◇生き物が苦手な児童には無理をさせず、友達が見つけた生き物の観察をさせる。 ○知・技②(ワークシート・発言) ○思・判・表①(ワークシート・振り返り・発言) ○態度①②(振り返り・発言・行動観察)
6 7	・土壌生物の重要性を確認し、これまで調査した結果と目白小の生き物の共通点や相違点から、グリーンベルトの重要性を知り、校庭の環境を守る重要性に気付く。(3)				◇グリーンベルトについては、映像資料や図を見せることで理解しやすいようにする。 ○知・技③(ワークシート・発言・)
8	・校庭や地域の自然を守るために、自分たちができるとは何か考えよう(2)				◇自分たちができるとは何かを考えるときは、個別にアドバイスを出して考えを引き出せるよう机間指導する。 ○態度③(振り返り・発言・行動観察)

8 本時のねらい（35時間扱いの18時間目）

- ・学習院で調べた生き物について、調べたことや気付いたことを話し合いまとめることができる。
- ・学習院で調べた生き物について、グループやクラスで話し合うことで、考えを深めたり、生き物調べの学習意欲を高めようとしたりしている。

9 本時の学習過程

経過時間	児童の学習活動 C:予想される児童の反応	・留意点 ○評価【観点】（方法）◇支援方法
2	1 前時までの学習を想起させ、学習の見通しをもつ。 C：学習院で、虫や鳥やかえるがたくさんいた。 C：目白小より植物や生き物は多かった。	・前時までの振り返りを紹介する。
5	2 本時の課題を知る。	
	学習院で見つけた生き物について調べたことを伝え合おう	
8	3 学習院の生き物についてまとめたことをグループで共有し、まとめる。 C：バッタが草むらにいた。 C：アメンボが池の水の上にいた。 C：セミの声が木の上からした。 C：やもりが木についている看板の裏にいた。 C：セミの声が3種類聞こえた。	・「水辺」・「林の中」・「原っぱ」を調べた児童が、それぞれの場所で調べた生き物を伝え合えるようにグループ分けをする。 ・それぞれの場所の、どのようなところに、どんな生き物がいたのかを伝える。 ◇どのようなところにがわからない児童は、見つけた生き物だけ伝えるよう指示する。
25	4 グループで気付いたことを話し合いクラスで共有する。 C：アメンボは水辺しかいない。 C：バッタは原っぱにたくさんいた。 C：ちょうは水辺にも原っぱにも林にもいた。 C：原っぱにいるちょうをとんぼが食べているのかな。 T：場所によって生き物のすみかが違ってたり、それぞれの場所は生き物でつながっていたりするんだね。	・場所ごとに分けて整理することで、さまざまなことに気付くことができるようにする。 ◇気付きがない児童には、その場所にしかない生き物や、どの場所にもいる生き物に注目させる。 ○学習院で調べた生き物について、調べたことや気付いたことを話し合いまとめることができる。 【知識・技能①】（発言・ワークシート・振り返り）
35	5 これからどんな学習をしていきたいか考える。 C：生き物がどうつながっているのか調べたい。 C：他の場所でもどんな生き物がいるのか調べたい。	
40	6 本時の学習を振り返る。	○学習院で調べた生き物について、グループやクラスで話し合うことで、考えを深めたり、生き物調べの学習意欲を高めようとしたりしている 【態度①】（発言・ワークシート・振り返り）

- ・振り返りの視点
- ① 「学習院の生き物を調べたことに対しての自分の思いや考え」
- ② 「自分の考えが深まったこと」
- ③ 「友達からの話を聞くよさや学んだこと」
- ④ 「次にどんな学習をしていきたいか。」
- ◇視点をもちたせて振り返りを書かせることで、「楽しかった。」「よくわかった。」だけでなく、自分の考えを整理したり、次時の学習に対する意欲をもちたせたりする。

板書計画

9 / 26 (木)

「としま生きものがし2024」調査隊

㊦学習院で見つけた生きものについて調べたことを伝え合おう。

学習院マップ



原っぱ

水辺

林の中

*場所によって生きもののすみかが決まっている。
*それぞれの場所で生きものはつながっている。